



コウノトリ



蓮花上の露



れんこん研究会



れんこん研究会



蓮花



鳴門西PAより眉山を臨む



収穫作業風景



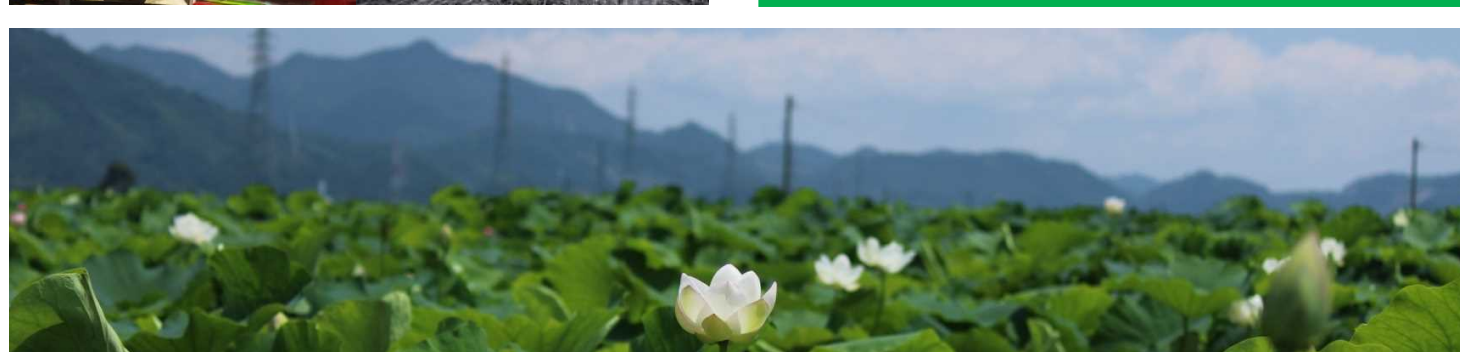
蓮の花托



れんこん研究会



収穫作業風景



Q. れんこん農家のイメージがわからないのですが、作業について見学したり、詳しく農家の方に話を聞いたりすることはできますか？
 A. ご連絡いただければ、地元農家の訪問、見学、意見交換などの場を設けさせていただきます。お気軽にお問い合わせください。ただし、年末はれんこん農家の繁忙期のため、お断りさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

Q. 農業知識や自己資金がほとんどないのですが、独立農家になりますか？
 A. 現在、鳴門市大麻町で、数軒の農家が移住する方の雇用を希望されています。まずはこちらのれんこん農家に就農し、栽培のノウハウを学んでいただくことから始め、習得度合いによって2年～5年をめぐりに独立することになります。その際には、機械、洗浄施設等が必要になるため、まとまった初期投資が必要となります。ただ、青年就農給付金などの補助金制度や青年等就農資金などの無利子の資金などを活用することによって、軽減することも可能です。もちろん、自己資金は多少でもあった方が気持ちに余裕も出来、有利なことは間違いありません。

Q. 新規就農者に公的な補助等がありますか？
 A. 青年就農給付金等の補助金があります。詳細は農林水産省のページをご覧ください。
 ▼農林水産省ホームページ
http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/

Q. 鳴門はどんなところですか？
 A. 以下のページをご参考ください。鳴門の暮らしや子育て情報、観光についての情報が満載です。
 ▼渦の国鳴門
<http://www.city.naruto.tokushima.jp/promotion/>
 ▼鳴との門
<http://www.naruto-mon.jp/>
 ▼おおあさ日和
<http://oosabiyori.com>

お問い合わせ：鳴門市地域おこし協力隊 渡辺
 E-mail : r.watanabe457@gmail.com
 Facebook 「鳴門市地域おこし協力隊」で検索
 もしくはQRコードにアクセス
 協賛：鳴門市、大麻町商工会
 J A 徳島北農業協同組合



鳴門市で

れんこん農家になれへんて？

れんこん農家は将来性があり
先に見える農業です



特定非営利活動法人 れんこん研究会

1. 収益が高い

れんこんは、時給換算にして約2,000円と、「もうかる野菜」に分類されます。1haあたりでは約800万円の売り上げが見込まれます。一般的に一人当たり70a~1haが目安とされますが、なかには一人あたり2ha近く栽培する農家の方もいます。そのため、れんこん専業の方がほとんどです。

2. 一年中収穫可能

れんこんは、いつ収穫されるかご存知でしょうか？露地栽培であれば、だいたい9月ごろから早掘りのれんこんが収穫可能です。一般的にはおせち料理の需要のある年末頃に出荷の最盛期を迎えます。れんこんが他の葉物野菜やお米、くだもの違うのは、圃場でそのまま貯蔵が可能であること。つまり、いつでも収穫でき、冷蔵などの貯蔵施設を持たなくてもいいのです。基本的に収穫を行ったら、すぐ洗浄、出荷となります。

3. 安定のブランド力

徳島県はれんこんの生産量全国第二位！粘土質の土壌で育ち、手掘りで収穫された鳴門のれんこんは、傷が少なく色白で身が引き締まり大変おいしいと評判です。そのため、京阪神市場では徳島県産のれんこんが市場の70%以上を占めているのです。販路が確立しているのでも売れないという心配がありません。

4. 夏の長期休暇も！

れんこん農家の最繁忙期は年末ですが、露地栽培の農家にとってはれんこんの花が咲く夏場は収穫前の閑期にあたります。この時期にまとめてお休みをとって、勉強をしたり、旅行をしたりすることもできます。また、基本的に一年じゅう収穫可能なので、独立農家の方は最繁忙期のそででは、自分の都合で作業が可能です。れんこん農家さんは子どもの運動会や行事に参加しやすいようです。

5. 安心のバックアップ体制

鳴門市では、若いれんこん農家の方が増えてきています。廃校になった小学校跡地で、月に一度れんこん栽培の研修会を行っています。みなさん真剣そのもの。熱心にメモをとったり、質疑応答を行っています。新しく就農される方も大歓迎です。

6. 新ブランド「阿波白秀」

安定のブランド力に加え、さらに新ブランド「阿波白秀」を栽培中。種れんこんを増やして、2017年秋の商品出荷を目指しています。

徳島県産れんこんの特徴

徳島県のれんこんの出荷量は、茨城県に次いで全国第2位。主な出荷先である関西圏市場での産地別のシェアは70%以上。

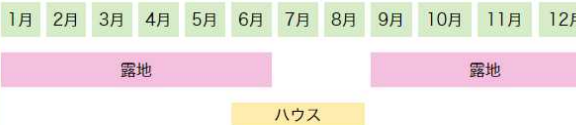


吉野川の氾濫によってもたらされた肥沃な粘土質の土壌で栽培されるれんこんは強い圧力の中で育つため、非常に密度が高く、シャキシャキした触感と濃い味が特徴的。

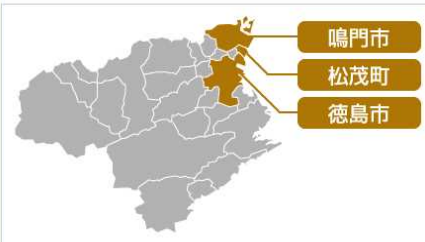
また、粘土質の土壌で育つため、水を抜いて重機でギリギリのところまで掘ったあとは、「手掘り」で収穫される。そのため、傷が少なく、きれいなれんこんとの評価が高い。

徳島県におけるれんこんの出荷時期と産地

出荷時期



主な産地



おどる宝島なっ！とくしまホームページより
(<http://www.pref.tokushima.jp/takarajima/known/renkon.html>)

2012年に鳴門市で就農した藤井さんの場合

鳴門市で3年ほど前から就農している藤井優希さん(鳥取県出身)・夏実さん(徳島市出身)ご夫婦はまだ20代。ご夫婦と3人のお子さんの5人で大麻町に移住されました。(以下、優希さん 夏実さん)



- 農家になると思ったきっかけは何ですか？
もともと母方の祖父の農家を継ごうと
思っていたんですが、別の後継者が決まって、
自分としては農家になるつもりでいたの、
いろいろ探したんです。
- れんこん農家で、というこだわりはありましたか？
いえ、最初かられんこんと決めていた訳ではないです。
- では、他の候補も？
実は県内の他のところで、家は格安、土地も提供するというところもあったんです。でも、相談に乗ってくれたのは役場の方で、実際に農業の経験がある方ではなく、農業について指導を仰げないことに不安がありました。そんな時、たまたま再訪した鳴門市でJAの方を紹介されて、その方が竹村さん(藤井さんの今の師匠)と引き合わせてくれました。「若い女性が農家やりたいうって相談に来よんじゃ」ってことが評判になっていたみたいで(笑)。竹村さんは真剣にれんこんをやるなら土地も世話する、農業も教えてやると言ってくれたんです。
- 今現在は雇用就農ですか？独立ですか？
独立です。まだハウス栽培はしていないので、露地ものが収穫できない夏場は竹村さんのところのお手伝いをしています。
- 苦労はありますか？
夏場は溶けそうになります。一度肥料を背負ったまま足を取られ倒れてしまっただけで、どうやって起き上がったのか覚えていません(笑)。
体力的には確かに大変です。一番心配なのは台風。
- 逆に楽しいこと、良かったこと。
植え付けや施肥の計画、出荷などでも自由度が高い。
出荷は共同選果ではなく個別選果なので、出荷先やどのような大きさで出荷するかなどを自分で決められ、工夫次第で価格が変わるんです。
農業はこれ世で一番難しい職業だと思います。でも、いつか必ず何かで一番になりたい。
プライベートでは、以前は子どもの寝顔を見る時間に帰って来ていたけれど、今は日が出ている間が仕事ですから、子どもと過ごす時間も増えました。
れんこん農家は「今日の仕事は昼からにして、明日は1.5倍仕事する」というような融通がきくので子どもの参観日や運動会も夫婦で参加出来ます。
- 月に一度「れんこん研究会」の勉強会が開催されているそうですが、勉強会は有益ですか。
めっちゃくちゃ役に立ってます(笑)。これがあるからできてます。
座学面は沢田さん(徳島県 普及指導員)が、実務面は竹村さんが教えてくれます。その時本当に知りたいことを学べるので、みんな真剣です。同じ悩みを持つれんこん農家の方と話すことも出来ますし。
- 土地や機械の確保などが大変じゃないかと思うんですが。
機械は融資や補助金で何とかかなと思います。
高齢で廃業される方もいるので、土地の確保は可能だと思います。ただ、貸してくれるかどうかは別問題。どんな人かもわからないのにいきなり土地を貸してくれる訳がない。でも、逆に言えば「この土地にれんこん農家として根付く覚悟があるな」という信用を得ることができれば面倒を見てくれる。見てないよう、周りにはちゃんと見てるんです。
- れんこん農家になるために一番大事なことは何ですか？
「この土地に根付いてれんこん農家になる」という覚悟ですね。
僕はこの覚悟をしてからやめようと思ったことは一度もないです。

若いのにしっかりした考えを持って農業に取り組む藤井さんご夫婦。農業に対する真摯な姿勢がお話から伝わってきました。